

受験勉強を軌道に乗せるには

茗溪塾塾長 長谷 誠基

猛暑だった夏も終わり、大分過ごしやすくなってきました。世間では Go To〜が話題ですが、受験生はこの時期が一番不安になるときです。模試を受けても成績が上がらない。過去問を解いても合格点に届かない。夏に頑張った生徒ほど「これで大丈夫なのだろうか？」という考えが頭を占めてしまい、勉強への意欲が薄れてしまうということもあります。でもこれは受験生が誰でも通る道です。今成績が取れている生徒でも、一時期はこういう時期があったのです。むしろ、今こういう状態になっているのなら、まだ間に合います。もう一度自分の勉強を見つめ直してみましょう。

どの学年でも夏休みで INPUT 型の学習はほぼ終了し、現在はいかに OUTPUT できるか？の演習型の学習になっています。また、実際の入試問題に当たる機会も増え、今の学習は言わば実戦的な他流試合なのです。ここで勝っていくには経験と反省が必要です。模擬試験を受けたら、結果の偏差値だけを見るのではなく、どの問題で間違えたのかをきちんと確認します。そして、その問題が正答率何%なのかをチェックし、目指す学校によって50%以上は絶対にできるようにしようとか、自分で基準を決めて KY 「こだわってやり直し」をやり続けましょう。過去問でも同様のことを継続していけば必ず成績は取れてくるはずです。また、弱点がわかったときに自分でやり直す教材を1つ決めておくことも重要です。社会の見直しには〇〇の問題集を使おうということを決めておかないと、何をしたいか迷った挙げ句、何もしないという状況になりかねません。何を軸にしたいか迷う場合には、先生に相談してみてください。一番合うものを紹介してくれるはずです。ここでの注意点は、できるだけ今までやったテキストや問題集を選ぶことです。新しいもので1から始めるのは明らかに効率がよくありません。自分の持っているものの中で軸になるものを選び、繰り返し練習しましょう。

時間をかけて勉強しているのに成果が表れないという人の場合は、勉強の中身を見直してみる必要があります。ただひたすら漢字や英単語を何回も何回も書いているのは、ただの作業です。おそらく書いている途中はほぼ頭を使っていないでしょう。勉強は頭を使わないと絶対にできるようにはなりません。漢字や英単語は自分でテストをして間違えたものを何回か書き、それを繰り返したほうが覚えられます。

入試までの期間は短いようでまだ十分な時間が残されています。1日1日を大切に、受験への学習を見直してみてください。